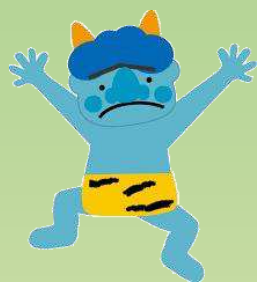


2019年度共立国際交流奨学財団奨学生研修会

岡山県・倉敷市



開催日: 2019年6月7日(金)～6月9日(日)

参加者: 2018年度財団奨学生12名

2019年度財団奨学生15名

2019年度共立メンテナンス奨学生1名

主催: 一般財団法人 共立国際交流奨学財団

研修会日程 1日目 交流会(19:00~)

交流会の様子



2018年度財団奨学生
PARAJULI SUSMAさん



2018年度財団奨学生
張 国珍さん



2019年度財団奨学生
LU KARさん



2019年度財団奨学生
周 慧さん

研修会初日の夜は、美観地区で岡山づくりの料理を楽しみました。

皆さん、美味しい料理を食べながら、それぞれの専門や自国のことなど話に花を咲かせました。

奨学生の皆さんは国籍も専門も様々ですが、日本で勉強するという同じ目標を持った仲間同士、仲を深めることができたようです。



間違えて来ちゃったけど、参加することになりました！^▽^



2日目 フォト・ロゲイニング(09:30~15:00)

倉紡記念館や大原本邸など日本の近代化を担った繊維産業の変遷に関係のある場所などを巡り、チーム毎に撮った写真のポイントで競いました。

2019 年度共立国際交流奨学財団奨学生研修会

<フォトロゲイニングマップ>

エリア①美観地区

【見学/課題作成】全員参加

- ①倉紡記念館
- ②大原本邸

- 📷 大橋家住宅
- 📷 新溪園
- 📷 阿智神社
- 📷 大原美術館
- 📷 桃太郎のからくり博物館
- 📷 アイビススクエア

体験①

①和菓子「むらすだめ」作り
(橘香堂) ¥600(普通サイズ) / 1200
(ジャンボサイズ)
約5分
全員参加

<フォトロゲイニングのルール>

マップに載っている場所に行き、写真を撮るとポイントがもらえます。合計ポイントが高いチームが優勝です。
※写真には必ずチームのメンバーを写してください！

<ポイントの獲得方法>

- ① 倉紡記念館、大原本邸は必ず全員見学をして、課題作文を書いてください。
- ② 和菓子「むらすだめ」は全身体験をして、感想を書いてください。(会計レジでスタッフにお金を渡して体験受け付けてください。)
- ③ エリア①は必ず行ってください。
また、全部で最低6つの場所を巡ってください。
- ④ 岡山名物の食べ物や郷土料理を食べたらポイントがもらえます。自分も写っている食べ物の写真を撮ってください。

■移動：エリア①は徒歩圏内です。②と③へはバスを使ってください。

■必ず 15:00 までにホテルに戻ってきてください。
※エリア②③に行った場合は、バスの時間に気を付けてください。

■写真・課題用紙提出方法：
ホテルに着いたら、スタッフに課題用紙を提出し、チームの代表者が写真をメール添付でまとめて送ってください。

写真提出先: kyontsu1995@gmail.com

※メールには必ずチーム名・メンバーの名前を入れてください！

※注 必ず 15:00 までにホテルに戻って来てください。遅れた場合は減点になります！

ホテル
(ドーミーイン倉敷)
START 9:30~10:00
GOAL 15:00

※注 バスの時間に気を付けましょう！

エリア②児島地区

- 📷 ジーンズストリート
- 📷 旧野崎家住宅・野崎家塩業歴史館

体験②

- BIG JOHN 児島本店(ジーンズストリート)
- ②デニム雑貨作り ¥500~ 約15分
- ③インディゴ染め ¥500~ 約15分
- ④ペイント体験 ¥500~ 40分間自由制作

エリア③源平地区

源平合戦 藤戸古戦場跡

- 📷 佐々木盛綱像
- 📷 経ヶ島
- 📷 藤戸寺
- 📷 浮州岩跡

昼食は各自
好きなところで
とってください！



2019 年 5 月 30 日改訂

出発前の説明の様子 チーム毎での作戦会議



2018年度奨学生
2019年度奨学生

フォト・ロゲイニングチーム



Aチーム

肖开提 排茹扎さん
BUNTHAN SEREIROTHさん



Bチーム

BUI THI BAO NGOCさん
REZIWANGULI AILIさん



Cチーム

REBEKA SULTANAさん
周 慧さん



Dチーム

安 ジョンさん
NGUYEN NGOCTHAOさん



Eチーム

VU THI MINHさん
潘 昱儀さん



Fチーム

AYE MYAT MONさん
林 頌翔さん



Gチーム

NGUYEN THI MINH PHUONGさん
李 菁杭さん



Hチーム

PARAJULI SUSMAさん
朴 宇理さん



Iチーム

LE THI LUONG CHAUさん
MUKEREBAI MUHETAERさん



Jチーム

張 国珍さん
LU KARさん



Kチーム

SATRIO BUDI PRAKOSOさん
周 東魯さん

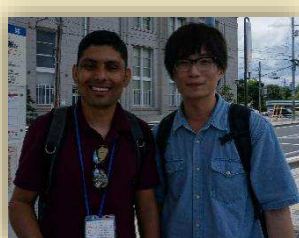


Lチーム

YOENG JYE YEONさん
YASENJIANG AXIMUさん

Mチーム

SUKHTSODOL
LKHAGVADORJ
さん
鄭 文彬さん

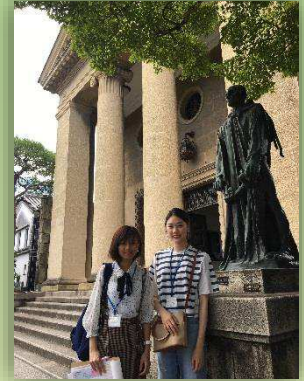


Nチーム

BHATTA KUMAR
PRASADさん
邱 敏雄さん

フォト・ロゲイニング中の奨学生♪

エリア①美観地区



エリア②児島地区



エリア③源平地区



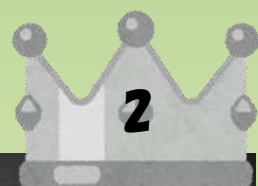
★結果発表・表彰式★



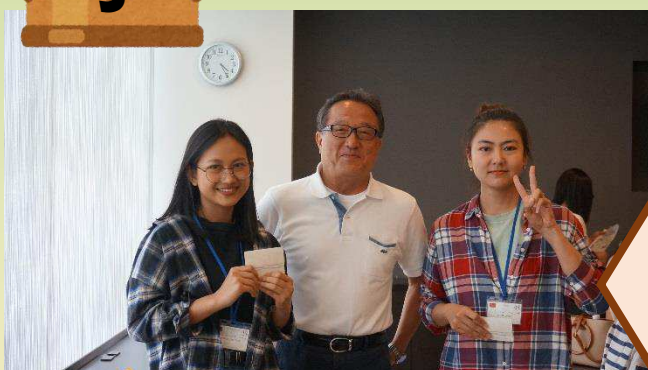
フォト・ロゲイニング採点の結果、以下の5チームが入賞しました♪その他のチームも景品をゲット！皆さん、お疲れ様でした。フォト・ロゲイニングを通して、少しでも日本の近代化を担った繊維産業の変遷について理解できたら嬉しく思います。



Jチーム
張 国珍さん
LU KARさん



Eチーム
VU THI MINHさん
潘 昱儀さん



Aチーム
肖开提 排茹扎さん
BUNTHAN SEREIROTHさん



Iチーム
LE THI LUONG CHAUさん
MUKEREBAI MUHETAERさん



Nチーム
BHATTA KUMAR PRASADさん
邱 敏雄さん

研修会感想紹介

- ① 倉敷で、日本の近代化を担った繊維産業の発展についてわかったことを書いてください。
 - ② 倉紡記念館や大原本邸にて、印象に残った説明文を1つと、その理由を書いてください。
 - ③ フォトリソグラフィングをして、自国の友人に紹介したいと思った場所を1つと、その理由を書いてください。
- ※感想文は学生の書いた文章をそのまま掲載しています。



チーム

張 国珍さん(2018年度奨学生)

- ①倉敷は「繊維の街」として知られて、古くは男子学生の制服の製造する町であった。1888年に当地に大原孫三郎が紡績会社を創業しました。創業期の明治時代の紡績はいろいろな機会を海外から引入して効率が良くなってきて事業がますます拡張しました。大正時代、工場の建設や従業員の生活の向上に専念して経営しました。昭和時代、戦争や不況に直面して再び革新しました。今以て繊維産業はいろいろな事業して多角化して、現在、倉庫が倉敷の町並みに合わせて観光地に改造されました。
- ②倉紡記念館はアイビスクエアの中にあって棉の保存のために建てられた倉庫です。倉敷の紡績事業の歩みや榮枯盛衰が紹介されました。一番印象に残ったのは「倉敷三傑」についての物語だと思います。小松原慶太郎、大橋沢三郎、木村利太郎、この3人は倉敷地区の復興の不可欠の人物。
- ③現在岡山県の一番有名な観光地と言えば、倉敷の美観地区はなくてはならない観光地。大正~昭和初期の風情を良く残しています。古い街並みや白壁の家だけではなく、倉敷の歴史や観光地として有名になっていく過程までを思い知られます。台湾にとって、貴重な経験だと思います。文化財や今後地域をどのように保存するべきか、課題も含め、学ぶに良い場所だと考えて紹介したいです。

LU KARさん(2019年度奨学生)

- ①アメリカで生まれましたジーンズ。それを日本で初めて国産化したのが児島のまちです。千拓地である児島では木綿の栽培が盛んに行われました。その木綿の織りや縫製技術を産業の基盤に今なお発展を続けている繊維のまちです。足袋・学生服・作業服と、繊維のまちとして発展し、国産ジーンズ発祥の地として生まれ変わった倉敷市児島です。いま児島に新しいスポットが誕生しています。岡山のジーンズメーカーのショップを集めた児島ジーンズストリートには児島ジーンズならではの藍染めを特徴とし、オリジナリティーあふれるこだわりの品々が販売されております。全国のジーンズファンからの注目を集めている倉敷市児島です。
- ②私の印象として残ったのは第2室に展示室してあった独身者向寄宿舎と社宅の模型です。写真を見て寄宿舎に床の間があることにビックリし、社宅では一般的な社員向けでありながら庭付きになっていました。このような福利厚生施設の充実ですが社員のやる気に火をつけ企業として大きく成長するパワーになったと感じました。そのような強い心を持ち、日本たちは今世界で高い立場に国を立てる理由だと思います。
- ③自国の友人に紹介したいのはBIG JOHN児島店だと思います。国産ジーンズを作っている店なのですごく面白いです。ジーンズはほかの服装に比べるととても丈夫な服装です。値段は高いけどジーンズが好きな人としては一番かっこいいイメージを持っていると思います。BIG JOHN店では色々な体験ができるから友人に紹介したらジーンズはこういう風に作っているんだと感じてもらいたいと思います。

VU THI MINHさん(2018年度奨学生)

- ①江戸時代初期から、県南部では海を埋め立て、各地で新田開発が盛んに行われた。雨が少なく温暖な気候に加え、塩分を含んだこれらの新田は、綿の栽培に適していた。また児島半島のほぼ中央に位置する由加山に端を発した水系は四方に流れ、ふもと集落を潤した。このような周囲の綿作地帯で児島地区では繊維産業が発達した。昭和30年代に藍あい染め綿織物流れをくむ国産初となるジーンズを開発した。昭和40年代半ばにはジーンズブームが到来し、気軽にカジュアルファッションの代名詞となった。児島は海外の有名ブランドになり加工などが児島で行われることから技術の高さがうかがえる。現在はオーダーメイドジーンズやデニム生地を活用した新たな製品が開発されている。
- ②アイビスクエアの中にある倉紡記念館は自分の印象に残った場所である。建物は創業期の原綿倉庫であり、建設されたのは明治22年(1889年)であり、今までは築100年も越えている。この記念館自体から歴史を感じられる。床板も当時のものそのままであった。工場で使っていた機械や重要書類などの資料が展示されている。奥の展示室へ進んでいくとかなりの存在感がある襖が目に飛び込んできた。これは版画家として名高い棟方志功が書いたもので、旧万寿工場の礼法室の襖として使われている。その襖を実際の手で見て何か語りかけてくるようなオーラがあると感じられた。
- ③倉紡記念館ではクラボウの歴史、かつて日本の主力産業だった紡績の歴史をたどりながら倉敷のことも知られる。そのため、自国の友人に紹介したい場所を選んだら倉紡記念館である。ぜひ、みんな倉紡記念館に行ってみてほしい。そこで、倉敷についての知らないことが知られるよ！

潘昱儀さん(2019年度奨学生)

- ①倉敷の繊維産業が長い歴史があった。江戸時代から、気候条件が適当のため、綿を栽培したから、細巾織物が誕生する。明治時代に入ると、近代繊維産業の興りのため、大村紡績所が開業し、繊維産業発展の基礎を築きました。大正時代に入ると、生産量が日本一を誇るようになりました。大正末期から、学生服の需要が増加するため、生産物がどんどん足袋などの和服から学生服などの西洋化服装になった。したかつて、良い基礎がある倉敷紡織業から生産した洋服もいい品質を維持して、とてもいい評価をもらった。そして、今は体育衣料、事務服、作業服などへも進出していきるので、多品種多彩な衣料品を生産している。
- ②倉紡記念館が、倉敷で長い繊維産業の歴史によって、5つの部屋にわけって、色々な器具、生産品と話しなどを紹介してもらったことは印象が1番深い部分だった。説明文の内容があまり印象が残らなかったことがすいませんでしたが、その一つ一つの部屋に入って、時代感とその時代の雰囲気が出たことが深い印象があった。倉敷の繊維産業の歴史が長いから、一つ一つの部屋にまわって、本当にこちの繊維産業の発展を体験するようにやったので、とても印象が深かった。
- ③ジーンズストリート:台湾のホームページであまり紹介文書がなかったけど、綺麗だったで、人もそうなんに込まないし、静かし。そこで、散策することが気持ちもよくなったり、心も広くなったり、とてもいい所と思うから、自国の友人に紹介したい。さらに、日本式の建物ー旧野崎家住宅もあり、ちょっと特別(ほかの観光地と違う)お土産も買える。自分も世界唯一のジーンズに関する物も作れる。本当におもしろかったで、倉敷美観地区だけではなく、バスを乗って、ちょっと遠い源平地区に行ってみて見た、本当によかった。



肖开提 排茹扎さん(2018年度奨学生)

- ①日本資本主義において中枢的地位を占めていたのは、繊維産業であったといつてよい。天然・合成の繊維から糸をつくり、織布し、各種の第二次加工を行うもので、綿糸紡績業、絹糸紡績業、製糸業、撚糸業、製網業、織物業などいろいろを包含する。その主要な生産工程としては、(1)繊維の選別や清浄化を行う準備工程、(2)繊維を引き伸ばし、撚りをかけて原糸をつくる紡糸工程、(3)紡糸を組み合わせ生地に織布工程、(4)織布地を晒、染色、捺染、加工する仕上げ工程などがある。1974年には日本新繊維法が公布されて、全維産業にわたる知識集約化による新商品、新技術の開発、生産や経営規模の適正化がうたわれたのである。このように合成繊維の生産は蓄増を示す。
- ②倉紡記念館の中で紡績産業の歴史を展示させていただきました。倉紡記念館は創立当時に建てられた原綿倉庫を、昭和44年の創立80周年に記念館としてリニューアルいたしました。文化財的建造物による趣きがある雰囲気の中で、日本の紡績産業の歴史を背景に倉紡の歩みを写真・模型・文書・絵画などで紹介しました。明治時代からの紡績機械や創業当時の文書など、大正時代労働理想主義を具現化していった倉紡の発展期資料、昭和時代不況と戦争期の時代背景と倉紡の変遷を展示、戦後昭和と平成時代ときの復興と倉紡の事業の多角化の歩みを展示などを説明しました。
- ③一番推薦ところはジーンズストリートです。倉敷は日本国産ジーンズの聖地です。旧野崎家住宅から野崎の記念碑までの約400mの通りに地元ジーンズメーカーが軒を連ねています。デニムの体験もたのしいです。こどもから今までジーンズをいっぱい着ますけど、そんな体験ははじめますのでうれしいです。周辺にはジーンズ以外の魅力的なショップやカフェが揃っていますが、ここまできたら楽しめるエリアとお思います。

BUNTHAN SEREIROTHさん(2019年度奨学生)

- ①倉敷紡績場、も倉紡ように知って、日本への新しい繊維産業技術を導入から利益を得ました。私の理解では、倉紡はデニムと呼ばれる西洋風ファッションで繊維産業に従事してきた会社と考えます。倉紡記念館で述べられているように、倉紡の紡績場は1922年以来デニムを作るために綿糸の生産を始め、今までにこの業界に関わっています。そして、年々にデニムの業界を新技術で支出していました。デニムはカジュアルな日常のファッションです。デニムから服、バッグ、アクセサリーの製造に使用しています。特にデニムはあらゆる年齢層に使用できます。私は倉紡が日本の繊維産業の紹介と強化に重要な役割を果たしていると考えています。
- ②私は大原本邸にてとても印象と魅していました。最小から建物に入った、ふりそそぐ言葉を部屋の中に呈して非常に印象しています。それで、次に、つみあがる必然がありました。それは、大原家族のメンバーの家系です。私は本当にこれらの二つのショールームをデザインする人に大きな拍手をしたいと思います。その以外には、家族の達成歴や有名な家族のメンバーの持ち物を紹介することをいくつかのショールームがありました。そして、私の一番好きなショールームは美術館の本のカフェと伝統的なタタミの部です。私は個人的にたくさん本を囲んでコーヒーを飲むのが大好きです。私は非常に感傷的で、昔の時に戻ったような気がしました。
- ③フォトロゲイニングの間、私とチームメンバは3つのエリアすべてを訪れてとてもラッキーでした。自国の友人に紹介する機会があれば、倉敷美観地区を選びたいです。その理由は、文化や歴史とかの経験を一箇所で楽しむことができると思います。倉敷美観にもとても美しい景色がありました。私はあそこをインスタポーツを呼びたいです。そして、友人もボードに乗って景色を楽しみたいだと思います。さらにデニムストリートもあるあるので、駅からかなり離れたジーンズストリートに行く必要はありません。そのところにもたくさんの面白い食べ物やカフェがありました。私と友人は、昔の気分を楽しむために地元のカフェやレストランに経験が大好きです。そして、倉敷美観がおすすめしたい。

引率後記

今回の2019年度共立国際交流奨学財団奨学生研修会(2泊3日)は、日本の近代化を担った繊維産業の企業城下町である岡山県・倉敷市で行われました。昨年に続き2度目の参加となる2018年度奨学生12名と、はじめて参加する2019年度奨学生の15名の、計27名で行うはずでしたが、飛び入りで急きょ2019年度のメンテ奨学生1名も参加することになりましたので、計28名の学生が参加しました。

初日の交流会では、岡山の名物を食べながらお互いのお話をしていました。最初はみんな緊張して、あまり話し声が聞こえてこなかったのですが、一テーブルに必ず話好きの人がいたので、次第に話し声が聞こえてくるようになりました。奨学生は全国各地から来ていますので、母国の話や学校の話で交流を深め、有意義な時間が過ごせたのではないかと思います。

2日目のフォトロゲイニングでは、快晴の中5時間半という限られた時間内に、2人ペアで倉敷市内の指定したポイントを巡り、点数を獲得していくという内容のゲームを行い、一部のチームは手を組んで回ったりして、ゲームを楽しんでいました。一部のチームはちゃんと入館料を払い展示物などを見て回り、多くの学びを得ていました。このゲームを通して、近代化を担った繊維産業の変遷に関して理解を深めることができたようです。

2泊3日という短い期間でしたが、この研修会がみなさんにとって忘れられない経験になったことを願います。(青木)

2019年度共立国際交流奨学財団奨学生研修会は岡山県・倉敷で「日本の近代化を担った繊維産業の変遷に関する理解を深める一企業城下町倉敷の散策」を目的に実施しました。参加人数は2018年度奨学生・2019年度奨学生と2019年度共立メンテナンス奨学生1名を合わせて28名で行われました。

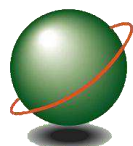
初日の夜に行われた交流会では、2018年度生は久しぶりの再会を楽しんでいました。2019年度生は初めての研修会なので緊張しているようでしたが、おいしい岡山名物を食べつつ、お互いの国の話や学校で学んでいることの話をしながら徐々に緊張をほぐしていました。

2日目のフォトロゲイニングでは、昨日の緊張が嘘のようにみんなが元気よく出発していく姿を見て安心しました。天候は良好でとても暑く、フォトロゲイニング後半ではみんなの顔に疲れが見えていましたが、会うたびに声をかけるとみんな笑顔で行った場所の話や見てきたものを教えてくれるのでゲームをととても楽しんでいるように感じました。倉敷の繊維産業についてもそれぞれに考えを持っていて奨学生の勉強熱心なところにも関心しました。

あっという間の2泊3日でしたが、奨学生の皆さんにとって思い出に残る研修会になっていれば幸いです。(柴田)



一般財団法人 共立国際交流奨学財団



K.I.F

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-18-3 第2昭和ビル4F

TEL:03-5295-0205 FAX:03-5295-0206

E-mail:kif-info@dormy.co.jp

ホームページ:<https://www.kif-org.com/>